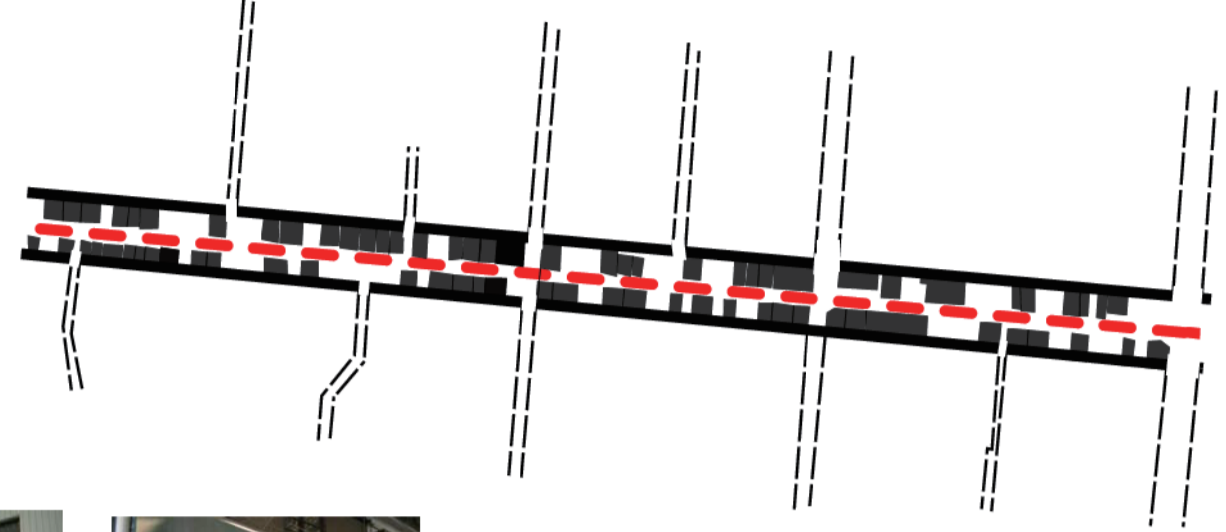


お茶の淹れ方 知ってはる？

商店街について

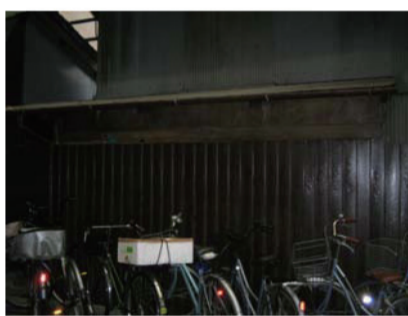
・オープンスペースの状況



閉店したままでシャッターが下りている店舗が多い。



・自転車の駐車状況



自転車の通行が多いだけでなく、駐輪が目立つ。空き店舗のシャッターの前に特に目立つ

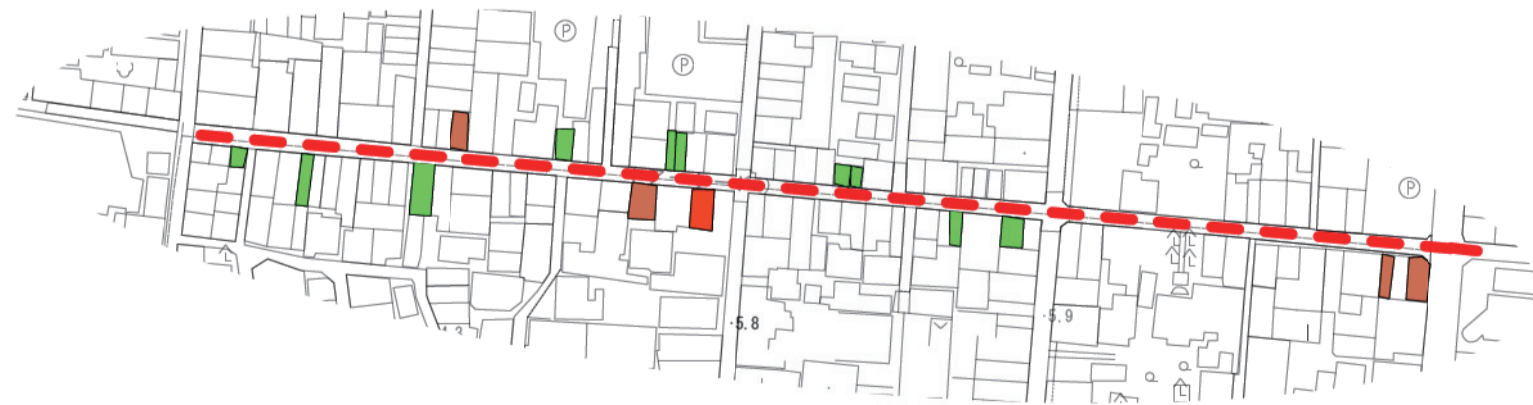
・夜営業している店



昼間は人が多いが、飲食店が少ないので夜に開いているお店が少ない。2階に住んでいないお店が殆どなので、夜は静かで暗い。



たこ焼き、コロッケなど食べ歩きのできるお店、惣菜を扱っているお店が多い



- 飲食店
- 食べ物物販
- 食品売り場

はじめに・・・

平野本通商店街は、平野郷の中心軸に位置している

平野郷には、町家長屋のような古いものや3階建ての住宅、アパートなどいろいろな時代のものがある。

本通商店街は戦後の闇市から発展してできたが、平野郷というまちに溶け込んでおらず、元気が無いように感じた。

本通商店街には、

- ・歴史のある老舗が多い
- ・個人経営のお店がほとんどで見ていて楽しい
- ・お店の人が親しみやすく、お客さんとの会話がある

といった良い点もあるが、

- ・客層が偏っていて、若い人が少ない
- ・閉店時間が早く、夜は暗くてさびしい
- ・通過にだけ使っている人が多い
- ・留まれるところがない

といった問題点があり、このまま元気が無くなっていくと

- ・通りがなくなってしまう
- ・平野全体のイメージが悪くなってしまう

という危険がある。

人とのつながり、なじみといった、今の本通商店街にできている魅力を大切に守っていききたい



お店の人のヒアリングから

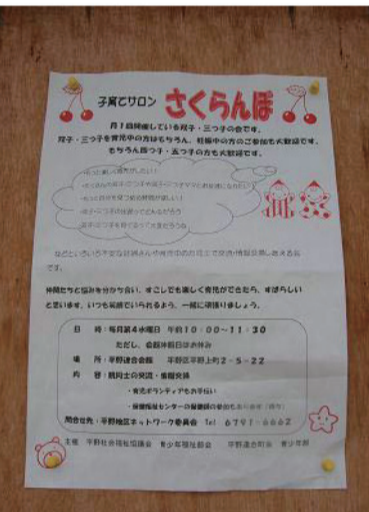
- ・今の商店街は、工場の移転、スーパーの立地、南海平野駅閉鎖などで衰退してきている。
- ・商店街自体が高齢化している。
- ・後継者不足に悩んでおり、若い人が商店街にお店を開くのは好意的である反面、賃料が高い。
- ・活気がほしい。
- ・物を売るだけでなく、アドバイスなどの対話が商売の強み。
- ・お客さんと話をするのが楽しい。
- ・HOPE事業を利用して、改修した花屋さんの売り上げが伸びている。



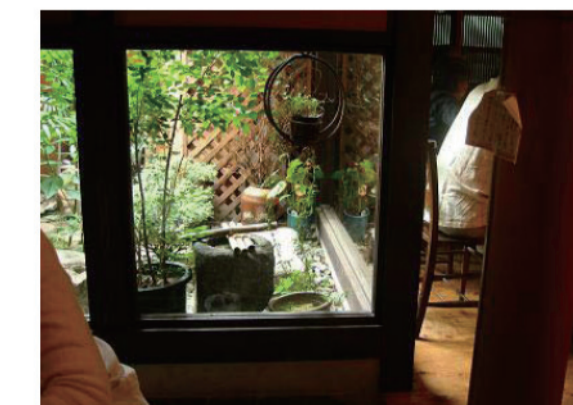
まちなかに小さな子供が多く見られたが、その反面、こどもを預かってくれるスペースが少ない



公文、手芸教室、子育てサロンなどの交流の場が商店街の周辺にある。



商店街の中にも小さなスペースはあるが、上手に利用されていない



商店街の中には町家が点在して残っている。六々々家(うどん屋)やちとせ(花屋)は町屋を改修して営業している。



以上の特徴を踏まえた上で、商店街に見られる人同士のつながりをコンセプトにして、さまざまな世代や時代、時間、業種が見られる商店街になるきっかけとなるような5つの提案を行う。商店街には使われていない建物や古い建物、味のある建物が残っていて、それらは外観が特徴的であり、商店街を通る人へ与える印象が強い。そうした建物が生き続けられるように既存の建物を改修して利用するという提案内容にした。